

地域を守る！ ▶被災者等の支援		災害時に支援する
033	自然災害の被災者の暮らしの立て直しや地域の復興、さらに防災・減災・縮災への支援を行う「もっとずっときっと基金」	取組主体
		フェリシモ基金事務局
		従業員数
		想定災害
		425 人
		地震、水害 などの自然 災害
		実施地域
		全国

基金を通じて被災者支援や防災・減災活動をサポートしている。緊急時に集めるのではなく、平時から基金を積み立てることで、災害時に迅速な支援を可能とし、地域社会のレジリエンス向上に貢献。

1 取組の概要

顧客の気持ちをお預かりして、全国の活動を支援する

- ・ファッションや生活雑貨のダイレクトマーケティングなどの事業を行っている株式会社フェリシモは、同社が設立した「もっとずっときっと基金」を通じて、国内各地で発生した自然災害で被災された方々への緊急支援や暮らしの立て直し、地域の復興、さらには防災・減災・縮災への取組を支援している。
- ・同社で買い物を楽しむ顧客に向けて、カタログや WEB サイトに基金の目的を明示し、商品の販売価格の全部または一部を基金として預かり、その基金を国内外の NPO などの様々な取組に拠出している。

能登半島地震支援などの活動のための資金を拠出

- ・2024 年 2 月期（2023 年 3 月～2024 年 2 月）において、2024 年 1 月に発生した能登半島地震支援として、発災直後から、現地の NPO やボランティアグループを通じて情報を収集し、緊急に必要とされている物資の支援を実施した。
- ・具体的には、一般社団法人福祉防災コミュニティ協会の「福祉避難所を円滑に運営するための活動」、一般社団法人危機管理教育研究所の「志賀町の福祉施設への訪問入浴活動」（計 2 回）、認定 NPO 法人難民を助ける会の「炊き出し活動」、NPO 法人国際ボランティア学生協会の「炊き出し活動」、そして、認定 NPO 法人日本災害救援ボランティアネットワークの「物資提供の支援」という、計 5 団体の活動に合計 2,466 万 2,120 円を拠出した。
- ・また、2023 年に秋田市で発生した豪雨災害支援では、被災地で活動する NPO 法人国際ボランティア学生協会の「復旧支援活動『まけたまバック』配布活動」と、聖霊女子短期大学付属幼稚園・保育園の「心を育む子どもたちの環境整備プロジェクト」という、計 2 団体の活動に 75 万 6,080 円を拠出した。



フェリシモの基金活動（同基金の HP）



志賀町の福祉施設への訪問入浴活動の様子



輪島市門前地域での炊き出し活動の様子



まけたまバック配布活動の様子

2 取組のきっかけと想い

- ・同社の経営理念「しあわせ社会学の確立と実践」のもと、顧客や取引先など、全ての方々と「ともにしあわせになるしあわせ」な社会を共創したいと考えている。その想いから、生活者の方々に、より「しあわせ」な社会づくりに参画いただく機会として、基金活動を展開。「もっとずっときっと基金」は、前身である阪神・淡路大震災支援活動

国土強靱化

と、2011 年 3 月に開始した東日本大震災義援金基金を引き継ぎ、2021 年 5 月から東日本を含めた全国各地を対象とした基金としてスタートした。基金を用いて、自然災害からの復旧や復興活動、防災や減災、縮災の取組支援を行っている。2011 年以降にお預かりした金額は累計 4 億 8,737 万 4,000 円（2025 年 1 月時点）に上る。

3 取組の特徴（差別化した点、地域特性などで工夫した点等）

迅速に支援を実行できる基金を目指した活動

- ・従来は災害発生後に基金を募る形だったが、自然災害の増加に鑑み、平時から積み立てる基金へとリニューアルした。緊急支援と復興支援だけでなく、防災や減災への取組にも基金を活用可能にしたことで、平時から NPO をはじめとする民間団体などとの関係構築につながった。これにより、能登半島地震では速やかにそれらの団体と連携し、支援を実行できた。

行政では手が届きにくい方々への個別支援を重視

- ・顧客から預かった基金を目に見える形で役立てるためには、行政では手の届きにくい方々の個別のニーズに合わせた支援を行うのが最良であると考えた。同社は元々、事業活動や 30 年以上にわたる種々の基金活動を通じて様々な NPO をはじめとする民間団体とのネットワークと信頼関係を構築済みであった。一般社団法人福祉防災コミュニティ協会が実施する福祉避難所の運営研修を支援することなどを通して、被災者の困りごとを吸い上げて適切な支援を行っている民間団体と築き上げた民間団体とのパートナーシップを、災害時に活用することとした。その成果として、能登半島地震においては、これらのパートナー団体と発災直後から連携することで、炊き出し支援、要介護の高齢者への入浴支援の実施や福祉避難所ごとに必要とされる物資などを調達するための支援を実施することができた。

4 取組の効果

継続的な支援の実現

- ・毎月 1 口 100 円を募る仕組みで、2011 年から 10 年間にわたり東日本大震災の被災地を支援。無理なく続けられる仕組みと現地報告を通じた使途の透明化により、多くの顧客が安心して継続的に参加し、被災地の方々を応援し続けることができた。

顧客の防災意識の向上

- ・災害支援といえば同社という意識が顧客の中で育まれ、「商品で支援してほしい」「何かお手伝いしたい」という声が増加。これを受けて防災商品の企画開発等に取り組み、互いを思い合い支え合う優しいつながりが生まれている。

周囲の声

- ・「高齢者福祉施設の要配慮者が長期間入浴できない状況を知り、支援を実施できました。ご支援いただいた皆様に感謝します」（NPO 担当者）
- ・「早期に助成が決まり、活動を実施できました。ありがとうございます」（炊き出しを実施した NPO 担当者）

担当者の声

- ・基金にご参加いただいている方々、そして、真摯に支援活動を展開されている団体の皆様に、心から感謝申し上げます。私たちの災害支援は、1995 年の阪神・淡路大震災直後に全国のお客様から寄せられた励ましのメッセージがきっかけでした。「もっとずっときつと基金」へリニューアル後は、非常時に速やかに支援をサポートできるようになり、能登半島地震でも緊急支援に役立てていただきました。今後も被災された方々と応援する方々をつなぐ役割として、多くの方々のお気持ちを生かし、被災者が笑顔と元気を取り戻せるよう、基金を適切に拠出してまいります。
- ・今後の課題として、①当基金の社会的認知の拡大、②日頃からの自治体や団体との連携強化、③活動結果の効果測定が挙げられます。ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

問合せ先	動画	サイト URL
フェリシモ基金事務局 電話番号：0120-055-820（通話料無料） E-Mail：fund@felissimo.co.jp URL：https://www.felissimo.co.jp/	—	